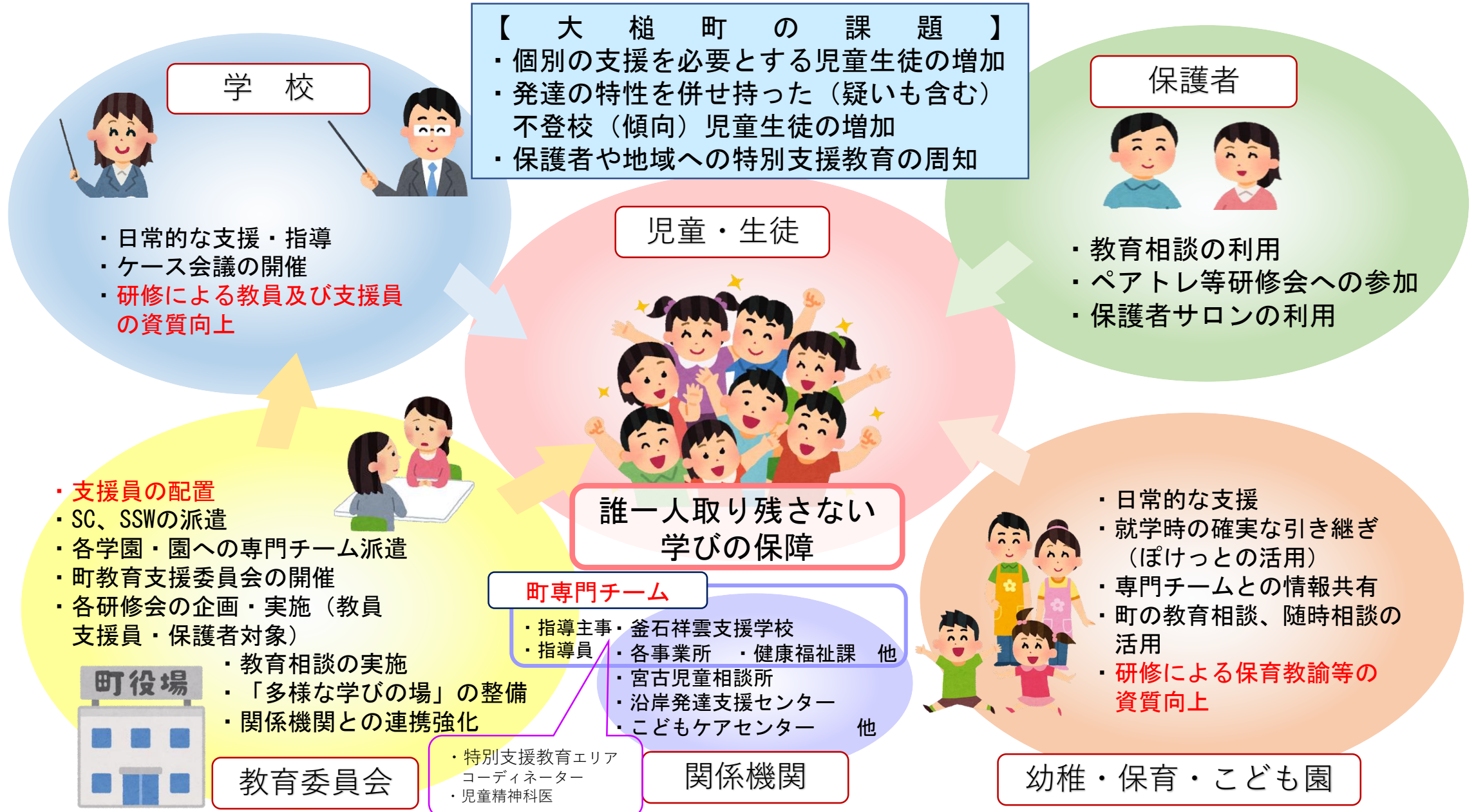




「けやき共育」の進捗状況について

大槌町教育委員会

けやき共育（大槌型特別ニーズ教育）の体制



本日の説明 ～「けやき共育」の進捗状況～



- ①令和6年度「けやき共育」取組状況
 - ・各研修会の実施
 - ・「けやき共育」の運営
- ②町長部局との連携
- ③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る
先進校視察
- ④児童・生徒の状況
- ⑤3月までの推進計画

大槌町 けやき共育

① 令和6年度「けやき共育」取組状況

大槌町教育委員会

令和6年度「けやき共育」取組状況



- ▶ 各研修会の実施
- ▶ 「けやき共育」の運営

各研修会の実施



- ・ 特別支援担当者研修会
- ・ 特別支援員研修会
- ・ 事例検討会
- ・ LDに係る研修会
- ・ペアレント（ティーチャーズ） ・ トレーニング

特別支援担当者研修会

R6.4.10



●特別支援学級担任及び町内幼稚・保育・こども園の保育教諭を対象

- ・ 講 師 特別支援教育エリアコーディネーター
(県立気仙光陵支援学校教諭)
- ・ 参加者 町立各学園特別支援学級担任及び
町内幼・保・こ園保育教諭 他
- ・ 内 容 ① (講義・演習) 個別の支援が必要な幼児
児童への支援の在り方
② (演習) 特別な教育課程及び個別の指導
計画の作成について
- ・ 成果と課題

初めて特別支援学級担任となった教員もあり、具体的な支援の在り方について、講義や後半の演習を通して年間の見通しをもつことができる研修会となった。これまで特別支援に関わっていた教員も自分の指導を見つめ直す機会となった。



特別支援員研修会

R6. 4. 26



- 町内各学園に配置している支援員及び特別支援員が対象
町内幼稚・保育・こども園の保育教諭にも周知し3園から参加
- ・講師 佐藤 駿一 氏
(東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部 病院診療医)
- ・内容（講義）主な障がいの特性の理解と支援について
(協議) 学校・学級での支援について





- ・成果と課題

専門的な知見による講義は有意義であった。環境を整えること、叱るときは親戚の子供を預かったときくらいの気持ちでという具体的な話もあり、参加者は自分の指導を振り返りながら聞くことができた。

後半のグループ協議では、参加者が互いの悩みや経験を共有することができた。アンケートからも協議での共有が参考になったという意見が多かった。



事例検討会

R6. 7. 30



●町内各学園教職員含む教育、福祉、療育の関係者を対象

- ・助言者 佐藤 駿一 氏
(東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部 病院診療医)
- ・内 容 事前に参加者から提供いただいた事例をもとに、グループごとに協議し、佐藤氏より助言をいただいた。
- ・成果と課題
参加者からは、「専門的な視点からの助言がありがたかった」「多様な意見を聞く機会となり有意義であった」と肯定的な感想をいただいた。今回事前に提出してもらった3事例を取り上げたが、異なる学園の児童の事例について話し合っていくには時間が足りなかった。共通の1事例について全員で考える、1学期の支援とその様子の交流等、研修会の内容については検討が必要だと考える。

ペアレント（ティーチャーズ）・トレーニング



- （ペアトレ） 町内（外）の保護者
（ティートレ） 各学園教員及び町内幼稚・保育・こども園の保育教諭 他
を対象
- ・ 8月末から10月上旬にかけて、全4回実施
- ・ 講師 NPO法人 紫波さぷり
理事長 細川 恵子氏
樋渡 朗子氏（公認心理士）
- ・ 内容 支援機関で取り組んでいる子どもへの療育
について、計4回の研修を通して学び、実践
に生かしていく。

大槌町 【けやき共育】

ペアレント・トレーニング

どんな風に声をかけたらいい？
子育てについて相談したい？

ペアレント・トレーニングとは、保護者の方々が子供とのより良い関わり方を学びながら、日常の子育ての困りごとを解消し、楽しく子育てができるよう支援する、保護者向けのプログラムです。
また、教員・子供支援関係者向けのプログラムも用意していますので、ぜひご参加下さい。

講師 細川 恵子 先生（NPO法人 紫波さぷり 代表）
樋渡 朗子 先生（臨床心理士・公認心理師）

開催日（全4回）
第1回 令和6年 8月30日（金）「行動を3種類に分ける」
第2回 令和6年 9月13日（金）「肯定的注目を与える（褒める）」
第3回 令和6年 9月27日（金）「好ましくない行動への対応」
第4回 令和6年10月25日（金）「子供の協力を増やす 効果的な指示」

時間 13:30～15:00（教員等15:30～17:00）
会場 おしゃっち 会議室2
対象者 大槌町の各幼・保・こども園、各学園にお子様がいる保護者（先着6名）

【お問い合わせ・申し込み】 大槌町教育委員会 学務課
0193-42-6100 お申し込みはこちら

ティーチーズ・トレーニング



- ・参加者 名（教員8名、支援者3人）
そのうち釜石祥雲支援学校から3名
- ・成果と課題

子供の行動の捉え方や褒め方のコツ等、研修、実践を通して学ぶことができ、障がいの有無に関わらず、全ての子供に対して役立つ内容であった。

県央から講師を招き、保護者向けと教員向けのトレーニングを1日で行う関係上、保護者向けの開催時間が昼過ぎとなり、仕事をしている保護者は参加しにくい。参加しやすい日程を検討し、保護者と教員も同じ時間帯で行うことも視野に入れていく。



専門チームの活用



- 教育委員会が主となり、各関係機関と連携し、ケースに合わせて対応

- ・各チームの構成員は大きく変わらないので、情報の共有がスムーズに行えている。
- ・0歳から18歳までの学びをつなげるためにも、専門チームでの支援の継続が、大槌町の子ども保護者、教員にとって欠かせない支援となっている。

大槌町専門チーム

相談チーム

指導主事、SC、SSW、
教育相談員、社会福祉士
医師 など

特別支援教育チーム

指導主事、釜石祥雲教
諭、エリアCo、社会福
祉士、各学園Co、SC、
SSW、医師 など

就学支援チーム

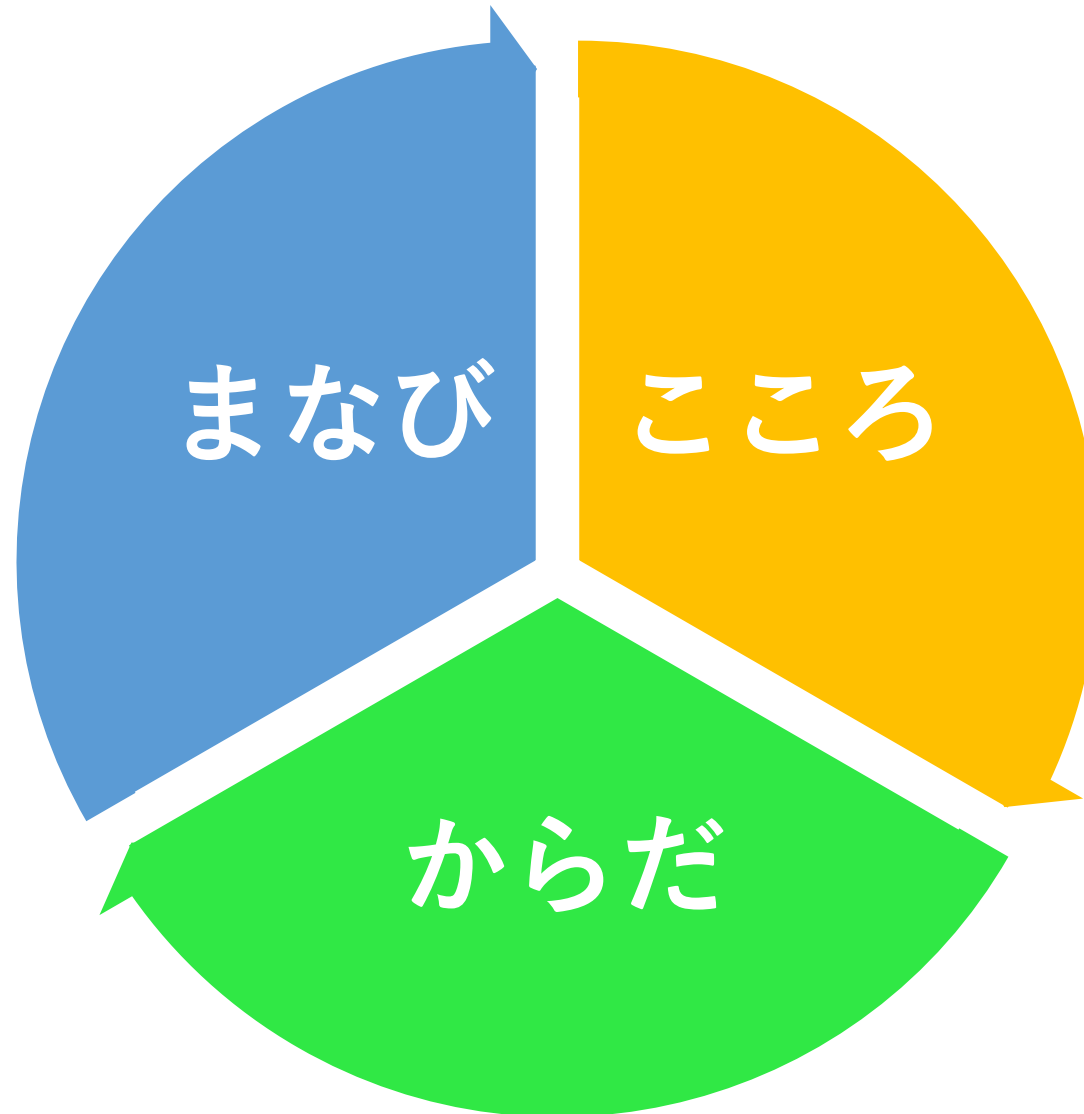
指導主事、釜石祥雲
教諭、社会福祉士、
保健師、指導員、
各学園Co、療育事業
所、医師 など

令和6年度「けやき共育」取組状況



- ▶ 各研修会の実施
- ▶ 「けやき共育」の運営

「けやき共育」が育むもの



学びを育む



● 学習ボランティア

- ・ どなたが？ 大槌町在住の教員OB
- ・ 内 容
 - * まさみじいちゃんの「英語教室」
 - * ひらのじいちゃんの「数楽教室」



生きる力を育む



● けやき体験学習

- ・ どなたが？ NPO法人「吉里吉里国」 & 藤岡さん
- ・ 内 容 ピザ作り体験



生きる力を育む



● けやき体験学習

- ・ どなたが？ NPO法人「吉里吉里国」 & 小林清さん
- ・ 内 容 ツリークライミング体験



生きる力を育む



● けやき体験学習

- ・ どなたが？ 阿部さんと小田島さん
- ・ 内 容 砂金取り体験

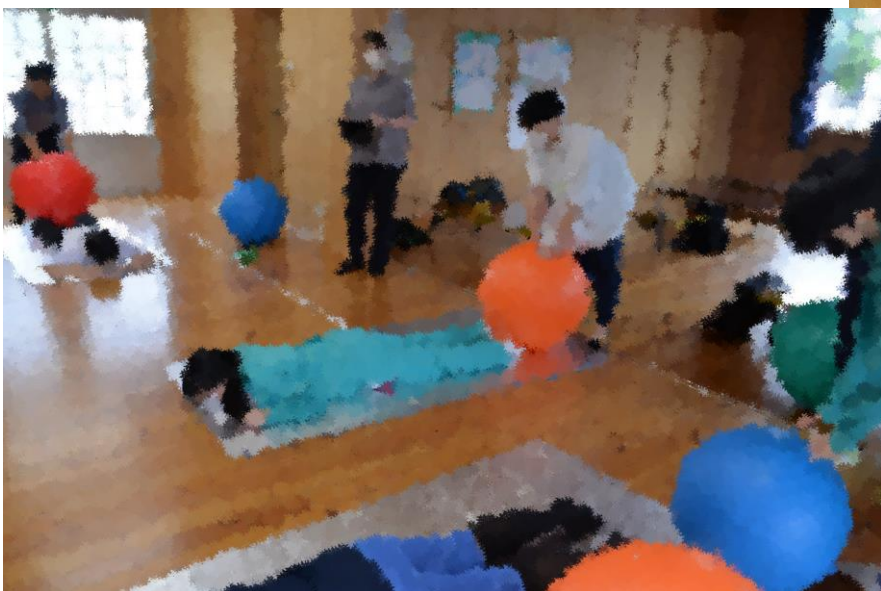


こころを育てる



● グロッセさんの「自己表現ワーク」

- ・ どなたが？ グロッセ龍太さん
- ・ 内 容 道具を使って身体の表現



こころを育てる



- まいさんの「美術教室」

- ・ どなたが？ まいさん（地域起こし協力隊）
- ・ 内 容 木工、絵などの表現

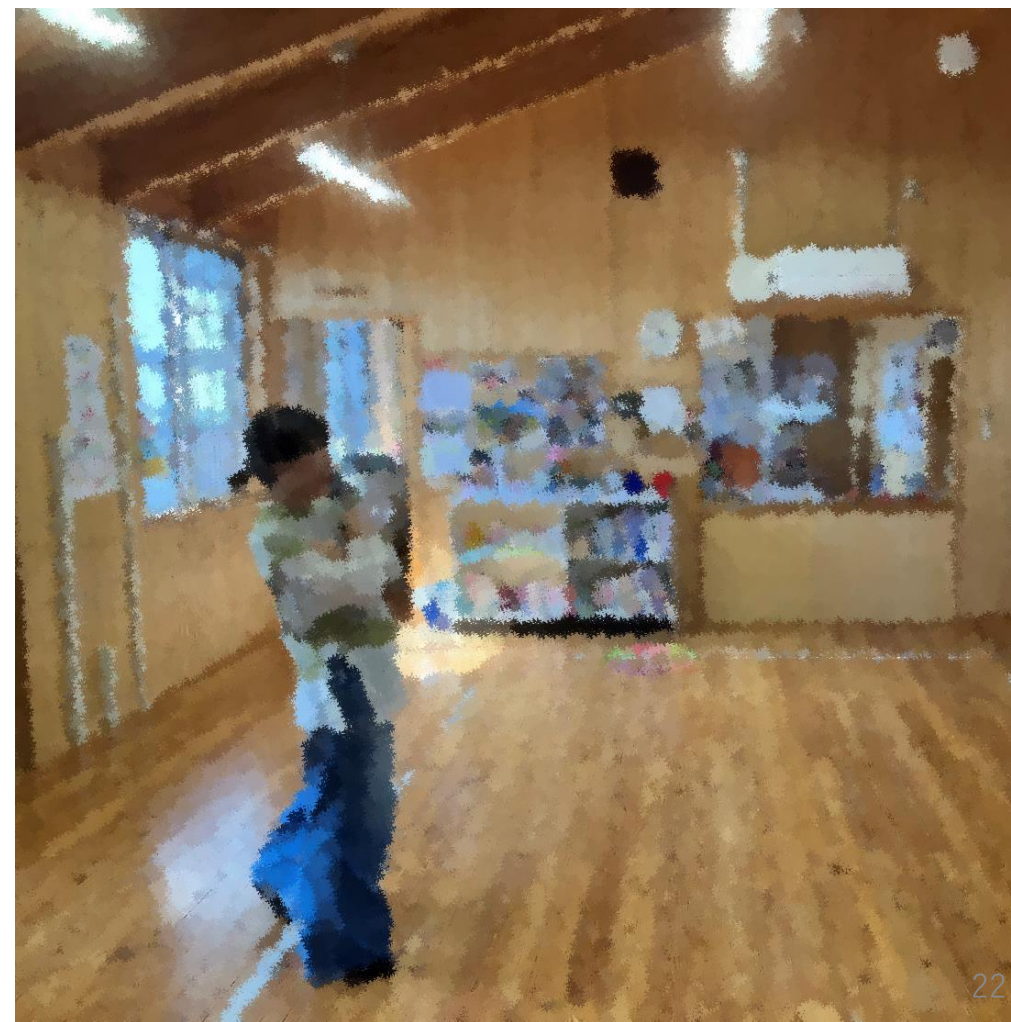


こころを育てる



- むっちゃんの「運動・遊びクラブ」

- ・ どなたが？ むっちゃん（作業療法士、保護者）
- ・ 内 容 運動、SST



体を育てる



● けやき子ども食堂

- ・どなたが？ 月あかりの会
- ・内 容 隔週水曜日朝、子ども食堂

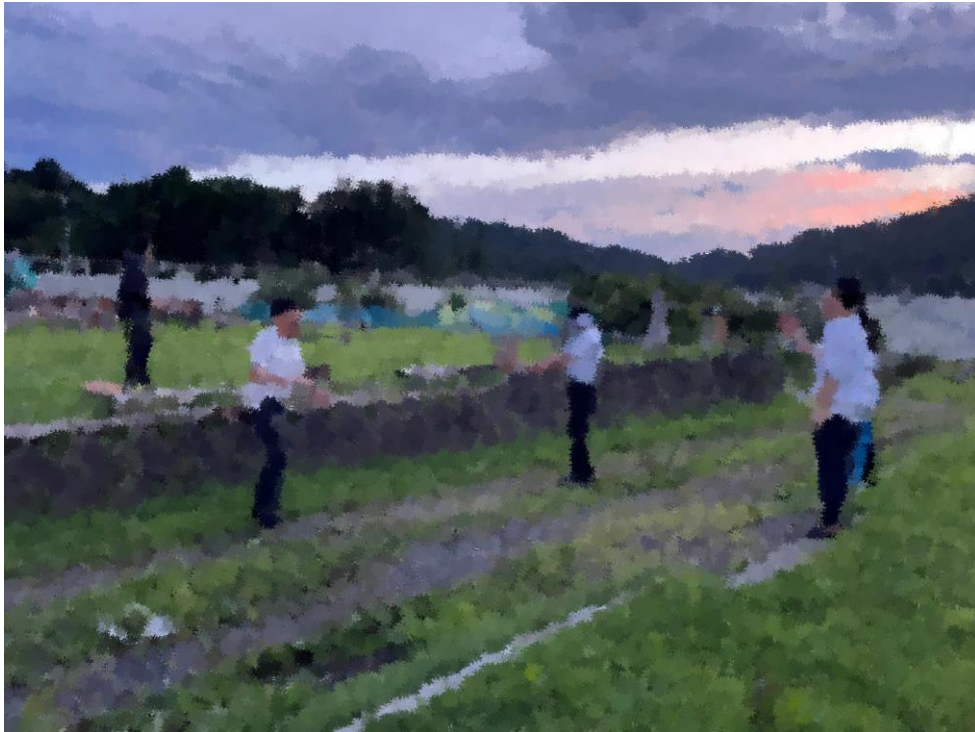


親と共に成長する



● けやき保護者サロン

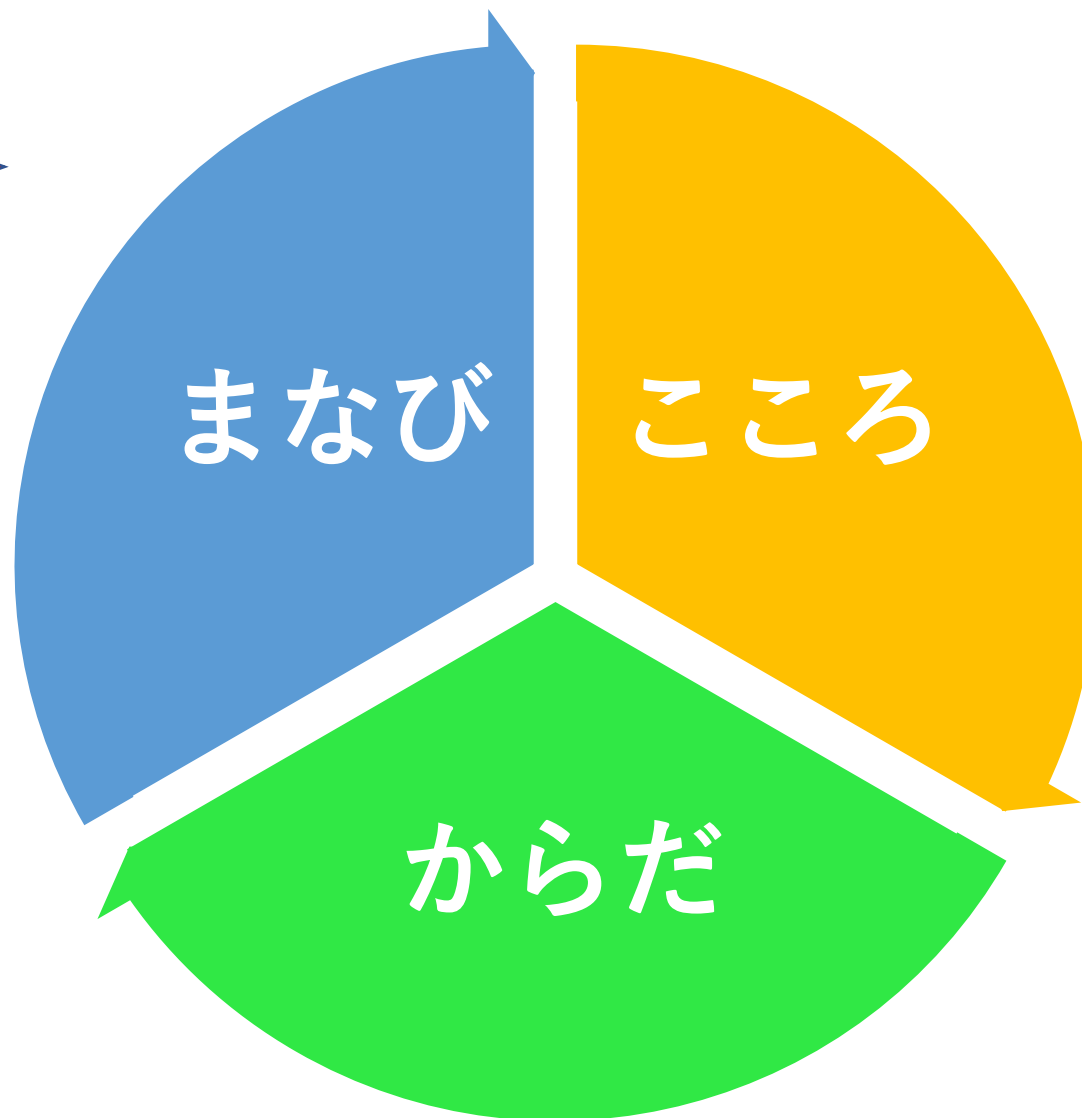
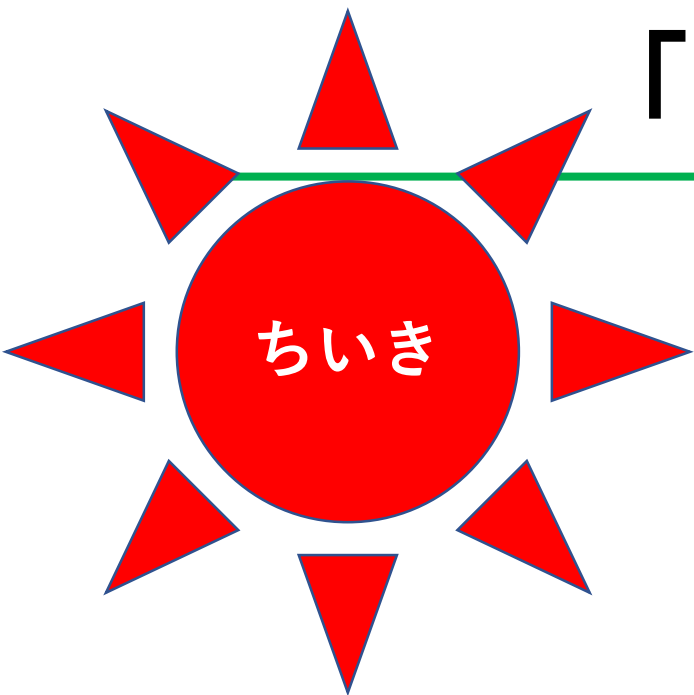
- ・どなたが？ 長欠保護者・家族
- ・内 容 焚火を囲んで



1学期の「けやき共育」

	事業	対象	形態	内容	24年1学期実施	1学期実績
1	けやきルーム (教育支援センター)	登録した小・中学生	本人・学校希望登録制	学習・体験・カウンセリングほか	授業日数	のべ 111人 実数 8人 (小3人、中5人)
2	けやき体験学習・自己表現ワーク	長欠の小・中学生	アウトリーチ (通知による案内、希望制)	ふるさと科・キャリア教育・自己表現ワークほか	2回	のべ 17人
3	けやき相談会	長欠の小・中学生	アウトリーチ (通知による案内、希望制)	児童精神科医による医療相談ほか	3回	のべ 8人
4	けやき保護者会	長欠の児童生徒の保護者	アウトリーチ (通知による案内、希望制)	同じ境遇の保護者の集い・当事者のニーズ把握ほか	1回	のべ 5人
5	けやき案内訪問	長欠の6, 7, 8年生保護者	アウトリーチ (通知による案内、希望制)	年度末、長欠児童生徒・保護者に向けてけやき共育の案内・相談ほか	実施予定	3学期末予定
6	全員面談	吉里吉里学園全員、大槌学園学年限定	校内面談	SC,SSWによる指定学年の全員面談を行い、不登校や困りごとの早期発見、早期対応ほか	実施中	各学園進行中
7	転校生家庭訪問・面談	転校生	アウトリーチ・校内面談	教育相談員、SSWによる家庭訪問、SCによる本人面談ほか	1回	1家庭
8	16歳からのけやき共室	登録した高校生	本人希望登録制	通信制高校生の学習・体験・カウンセリングほか	平日	のべ 50人 実数 7人
9	次のステージに向かう生徒・保護者へ	在籍変更の高校生	アウトリーチ・本人希望登録制	大槌在住の高校生の中、退学、転校など学籍変更を行う生徒	随時	
10	けやき子ども食堂	大槌学園小・中学生	本人の希望	隔週の朝食子ども食堂	6回	のべ 59人

「けやき共育」を育むもの



大槌町 けやき共育

② 町長部局との連携

大槌町こども家庭センター

取組状況について

①未就学児に関する連携について

②大槌町要保護児童対策協議会（要対協）の連携について

①未就学児に関する連携について

次年度の年中・年長児の情報共有（3月頃）

◆共有者

教育委員会指導主事及びことばの指導員

◆内容：

- ・乳幼児相談等により「発達が気になるお子さん」として経過観察・相談支援を行ってきた児に関する情報について共有
- ・次年度の教育相談を勧める児についても確認・検討している。

①未就学児に関する連携について

園訪問事業（5月～7月）

こども家庭センターと教育委員会により町内園を訪問

◆内容：

- ・園児に関する情報共有（年中・年長児）
- ・特に支援が必要な児について、教育相談へのつなぎなど就学に向けた働きかけの検討

教育相談へのつなぎ

- ・こども家庭センターや園から保護者へ勧め、相談へつなぐ
- ・教育相談の場への同席（必要時）

※スムーズに保護者が相談できるようつなぎ役を担う

①未就学児に関する連携について

就学児サポート会議（2月～3月）

安心して入学
できるよう、
みんなで話し
合います

- ◆対象：特別な支援が必要な児について、保護者の希望により開催
- ◆目的：幼・保・こども園から小学校へ入学する際、環境の変化による影響を少なくするため、関係機関で集まってお子さんのことについて共有・検討する会議
- ◆会場：就学先小学校（特別支援学校も含む）
- ◆参加者：保護者、園、小学校、教育委員会指導主事、児童発達支援事業所、相談支援専門員、こども家庭センター、学童クラブなど
- ◆内容：園や児童発達支援事業所で行っていた支援方法の引継ぎ
入学後に向けた保護者の願いの確認
入学式や入学後必要な支援内容の確認
※式場の配席などの配慮について、
その後運動会明けの時期までに必要な支援について話し合う
⇒サポートファイル「ぽけっと」の資料を見ながら確認していきます。

①未就学児に関する連携について



サポートファイル「ほけっと」の概要・目的

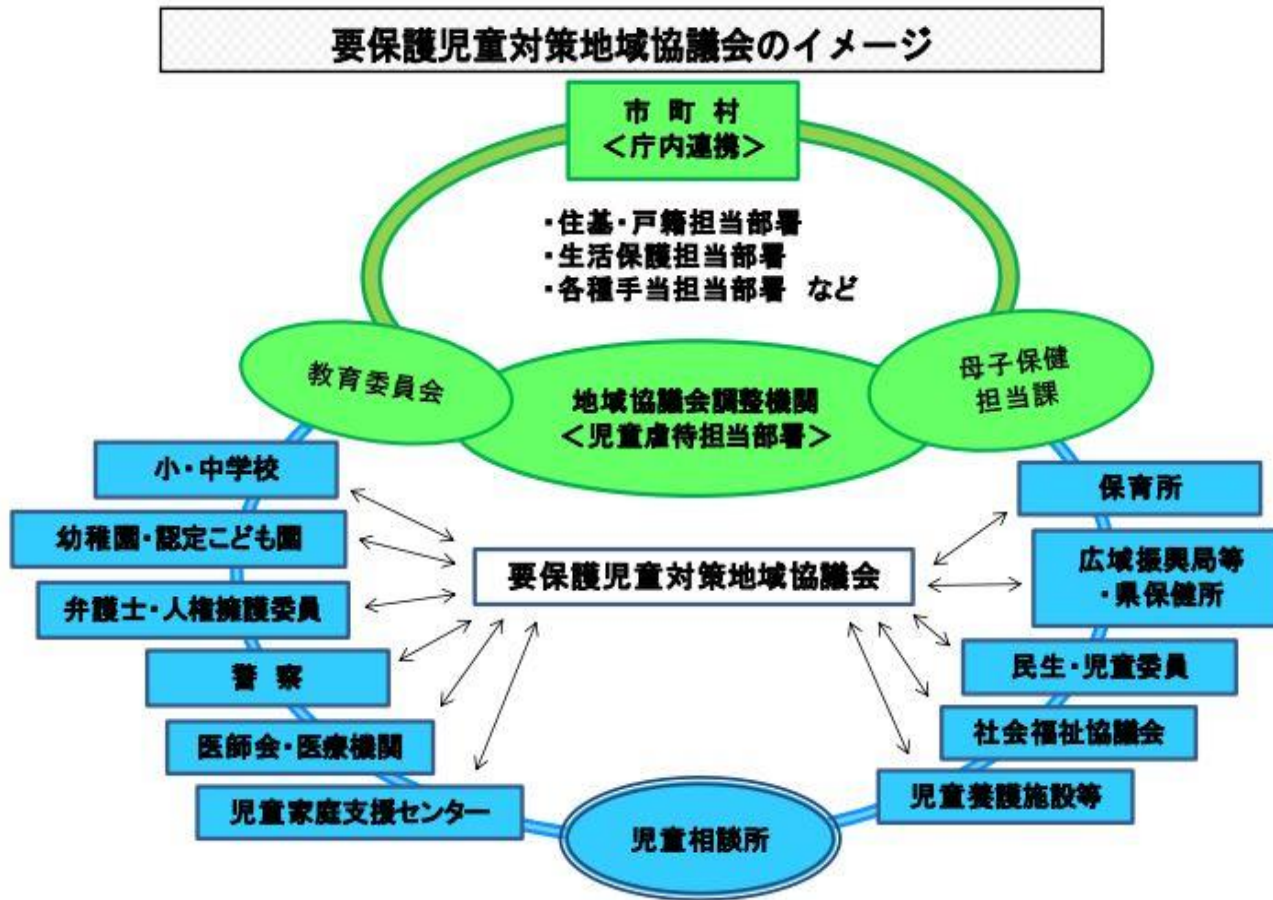
- ◆対象：特別な支援が必要な児について、保護者の希望により作成
- ◆目的：家庭と関係機関が連携するためのツール
子どもの特性やこれまでの支援の様子を次の支援者に伝えやすくする
- ◆内容：「本人のプロフィール、発達の経過、支援内容の記録、相談の記録、医療の記録」など成長の記録を一冊にまとめたもの（母子手帳の延長、成長の記録になる）
保護者が保管し、支援のつなぎの場面で活用

①未就学児に関する連携について

その他 医療的ケア児の就学に向けた連携

- ・ 医療的ケアが必要なお子さんの情報については早め（年少のころ）に教育委員会へ共有し、経過についても共有
- ・ 年中から教育相談へつなぎ、保護者の意向を伝えている

②大槌町要対協の連携～要対協とは？



■ **要保護児童対策地域協議会（要対協）** は、児童虐待などで保護を要する児童、養育支援が必要な児童や保護者に対し、**関係する複数の機関で援助を行う**ため、児童福祉法に定められている「**子どもを守るネットワーク**」

※大槌町では要保護児童対策調整機関を、大槌町こども家庭センターが担っています。

支援対象児童に関する関係機関連携の中心となるのが要対協。
義務教育学校に在籍する支援対象児童について、教育委員会・学校と共有・相談を図るのはごく自然な流れ。

②大槌町要対協の連携～大槌町教育委員会との連携

特長 1 大槌町教育委員会と大槌町こども家庭センターの物理的距離が近い

令和4年度から学務課（大槌町教育委員会事務局）が大槌町役場庁舎内に移転。
学務課⇄健康福祉課の往来がしやすくなり、直接足を運んで共有・相談を行う機会が増加。

平常時	緊急時
ほぼ毎朝、定期的に学務課へ赴き指導主事・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー・教育相談員等へ必要な共有を図る。	児童虐待通告は、所内で受理会議を行った後に学務課へ赴き共有を図る。必要に応じて、受理会議、判定会議に大槌町教育委員会に参加していただく。

以前は何度も指導主事・スクールソーシャルワーカーに連絡してもつながらなかったことが多かったが、確実に共有ができるようになった。また、緊急時の対応では、支援対象児童の情報や調査方法について共有・助言を得ながら対応を進めることができる。

②大槌町要対協の連携～大槌町教育委員会の特長

特長2 「支援者定例会」による町教委・児相・こども家庭センターの共有

【支援者定例会の概要】

頻度等：毎月1回 2時間程度

参加者：宮古児童相談所 児童福祉司
沿岸南部教育事務所 スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
大槌町教育委員会 指導主事・スクールソーシャルワーカー・教育相談員
大槌町こども家庭センター 統括支援員・母子保健担当者・児童家庭相談担当者

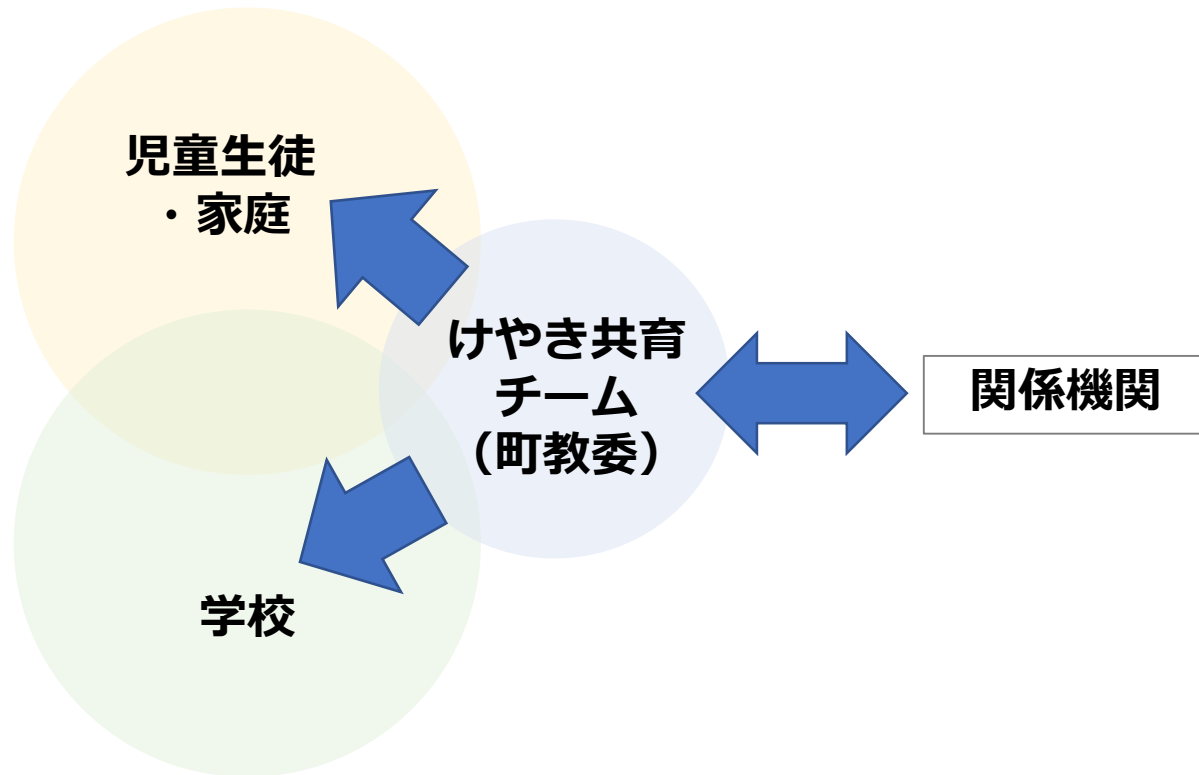
検討内容：（１）長欠児童・気になる児童生徒等に関する報告（大槌町教育委員会）
長欠児童の状況・気になる生徒児童等の状況確認・対応に関する検討 等
（２）要保護・要支援児童に関する報告（宮古児相・大槌町こども家庭センター）
要保護・要支援児童の支援状況の共有・支援方法の検討 等

支援者定例会によって、

- ①長欠児童・気になる児童生徒等の情報共有を受け、支援対象児童の早期発見が期待される。
- ②要保護・要支援児童の支援に関する相談やケース管理の牽制がより図られるようになる。

②大槌町要対協の連携～大槌町教育委員会の特長

特長3 「福祉専門職」を定期的に学校に置いている



■ けやき共育チームと町要対協の連携例

- ・ 要対協の支援終結後の児童生徒・家庭のフォローをけやき共育チームが対応。長い目で見守りを継続。
- ・ けやき共育チームが児童生徒・学校のアセスメントをし、こども家庭センターへ情報共有する。
- ・ こども家庭センターで関わりが難しい児童生徒・家庭に、けやき共育チームがアプローチする。

学校の中に福祉専門職がいることで、

- ①学校に近い支援者が児童生徒・家庭に対応できるため、児童生徒・家庭も支援を受け入れやすい。
- ②関係機関へ相談する流れが生まれ、学校・こども家庭センター間の連携もスムーズになった。

②大槌町要対協の連携～まとめ

- 情報共有が活発になり、双方の意見・助言をもとに支援対象児童の支援が図れるようになった
- 教育委員会の定期情報共有で、支援対象児童の早期発見につながる
- 学校（生徒指導）とこども家庭センターとの関係が取れ、児童虐待通告・相談件数は増加

お子さんの成長をぽけっとに ～かまいし・おおつちサポートファイルぽけっとのご紹介～



<サポートファイルとは>

大切なお子さんの育ち方や暮らしの様子、子育て中のご家族の思いなどを一冊のファイルに記録し、幼稚園・保育所・こども園・学校の先生や医師、相談員など（以下、「支援者」と呼びます）に子どものことをよりよく知ってもらうために使います。

お子さんの成長や引越に伴って、お子さん本人の暮らし方は大きく変わり、支援者も代わります。新しい支援者にお子さんのことをよく理解してもらうことで、お子さんに合う支えや気配りが切れ目なく継続して受けやすくなります。

<ファイルの作り方>

① プロフィールの必要事項を記入します。変更や追加があった場合は記入をお願いします。



② お子さんの成長に関わるものをどんどんぽけっとに入れましょう。

<ファイルの使い方>

① ファイルの追加・更新。

② ご家族と支援者がファイルの情報を共有します。

③ ご家族や支援者が日々の生活に情報を活かします。

④ ご家族と支援者との間でお子さんの様子を振り返ります。



<Q&A>

どのような人が使いますか？

特別な病気や障がいの有無にかかわらず、「子どもの成長の記録を残しておきたい」あるいは「子どもの情報を先生に正しく伝えたい」という思いのあるご家族であればどなたでも使用できます。母子健康手帳の内容をさらに延長して使うものとお考えください。

誰が記入し、保管しますか？

基本的にはご家族が記入し、保管します。記入の仕方については、支援者がサポートをいたします。

どんな場面で役立ちますか？

担任の先生や関わっている支援者が代わる際に「ぽけっと」の情報を見せたり、コピーをして渡したりすることで、これまでのお子さんの成長を伝えることができ、同じ説明を始めから何度も繰り返さずにすむようになります。

記憶ではあいまいになってしまうことも「ぽけっと」を活用することで、正しく支援者に伝えることができます。

<お問い合わせ>

ご利用方法等については、釜石市子ども課・大槌町保健福祉課までご連絡ください。

釜石市子ども課：〒026-0025 岩手県釜石市大渡町3-15-26

TEL：0193-22-5121

大槌町健康福祉課：〒028-1115 岩手県大槌町上町1-3

TEL：0193-42-8715

大槌町 けやき共育

③ 個別最適な学びと協働的な学びの 一体的な充実に係る先進校視察

大槌町教育委員会

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る先進校視察

1 ねらい

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために、先進校を視察し本町の教育の充実・発展へつなげる。

2 期 日

令和6年7月4日（木）～5日（金）

3 訪問場所

天童市立中部小学校

大熊町立学び舎ゆめの森学園

4 参加者

大槌町立大槌学園2名 大槌町立吉里吉里学園小学部、中学部 各1名

コラボスクール臨学舎スタッフ1名 大槌町教育委員1名

学務課長1名 指導主事1名

計 8名

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る先進校視察

天童市立天童中部小学校

授業参観のみの視察

自学自習とマイプラン学習を視察

○自学・自習とは

自学・自習では、教師がいない中で子供が教師役を務め授業を進行していく。

○マイプラン学習とは

児童が学習を計画し進めていく。例えば15時間の中で最初の7時間は外国語を後半7時間は理科を進めるといった計画を児童が立てる。



全校児童 637 人。4つの授業スタイル

- ①通常の授業
- ②自学・自習
- ③マイプラン学習
- ④フリースタイルプロジェクト

これらを適宜組み合わせて実践を進めている。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る先進校視察

天童市立天童中部小学校

○マイプラン学習(単元内自由進度学習)

自分の意志・判断によって自らの学習を組み立て計画し進める学び。



学習場所を選び、自分の学習を進める。
タブレットで動画を見たり、問題を解いたりする。



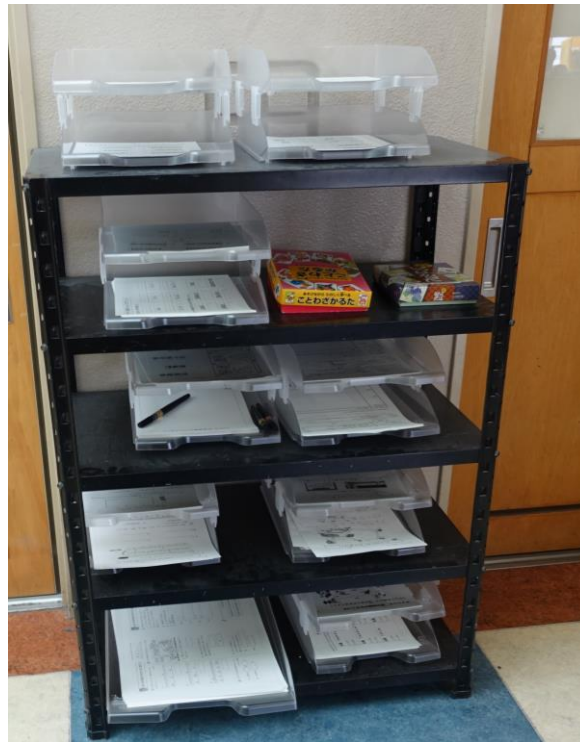
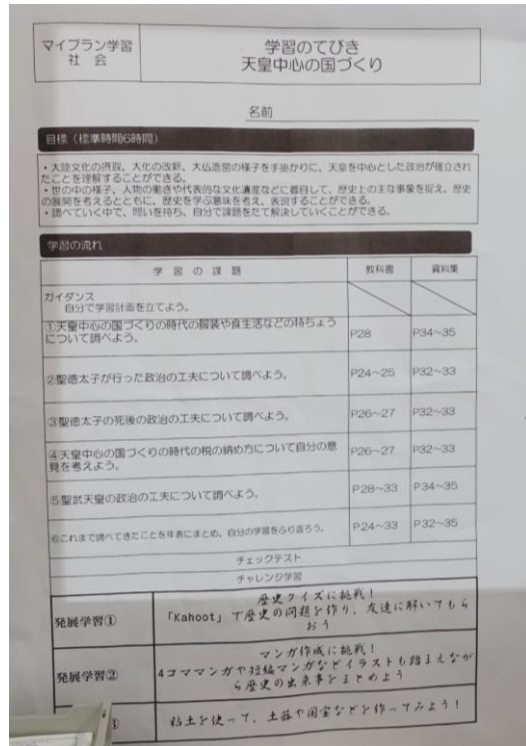
ローマ字の問題にタブレットを使って
取り組む。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る先進校視察

天童市立天童中部小学校

○マイプラン学習(单元内自由進度学習)

自分の意志・判断によって自らの学習を組み立て計画し進める学び。



学習の進め方(手引き)、ステップアップしていく学習シートが廊下に用意されている。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る先進校視察

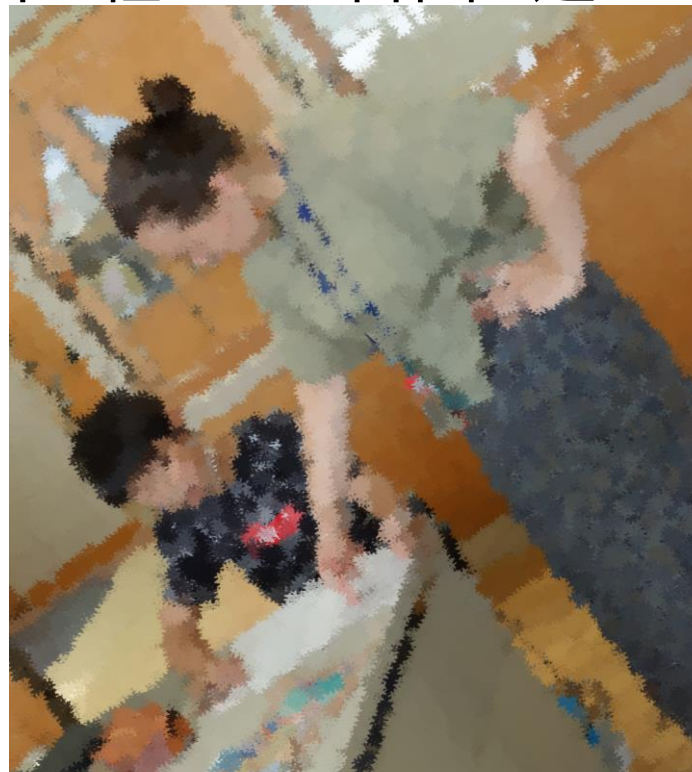
天童市立天童中部小学校

○マイプラン学習(単元内自由進度学習)

自分の意志・判断によって自らの学習を組み立て計画し進める学び。



黒板に学習プリントの解答があり、各自答え合わせを行う。



必要に応じて個々へ指導

6年1学期マイプラン学習		学習計画表 (13時間)
		社会 (6時間) 外国語 (7時間)
計画	分かったこと・疑問・さらに学習したいことなど	
教科	実施した学習内容	
6/28 ガイダンス「学習計画を立てよう」		
「できた」「できなかった」で終わるふり返り× 「なぜ、どうしてできた/できなかったのか」まで書くふり返り◎ 「問いをもつ→解決する→問いをもつ→解決する...」を繰り返していこう！問いは続くよ、いつまでも。		
1	社 1・2	聖徳太子とか名前を聞いたことあったけど、何をしたらいいかわからない。これから、何をしたらいいかわからない。学習のめい
2	社 3	自給自足の時代があったし、今はお金がなくなった。で、これって、どうなる時代なのか。税について、アミになる。税のめい
3	社 4	社会がはやくすすんじったから、外国語でしゃべったりして、最後の方のことも考えて見通しをもたてよう。税のめい
4	外 1	

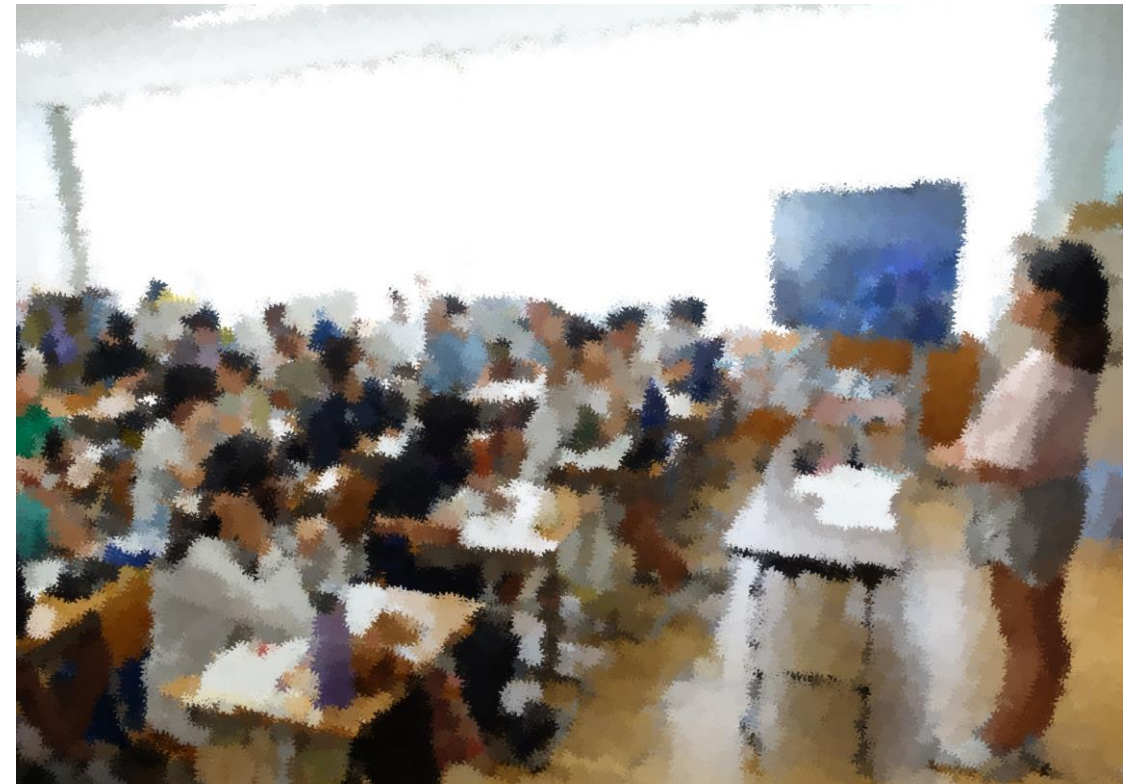
児童の学習計画表

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る先進校視察

天童市立天童中部小学校

○自学・自習

自分たちだけで学ぶことができる有能感・満足感を味わう。



6年生道徳の自学・自習の様子。自習時間を自分たちで学ぶ時間として設定。子供が学習シートをもとに発問し、答えたことを板書していく。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る先進校視察

大熊町立学び舎ゆめの森



認定こども園と義務教育学校を一体化し経営する学校。全校児童は56名。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る先進校視察

大熊町立学び舎ゆめの森



算数の授業では、それぞれの進度に応じて問題に取り組み、必要があれば友達や先生に聞くような形で学習を進めている。

6年生算数「分数でわる計算を考えよう」

単元ゴール
・分数のわり算の計算の仕方がわかる。
・表や数直線・式を使って分数のわり算の考え方について説明できる。
・分数のわり算について友達と協力したり、自分で調べたりなどして積極的に考えることができる。

時間	やることリスト	課題解決法			一輝Dサイン	
		学習形態	教科書	Qubena	プリント	かだい
1	インストラクション 「分数をかけるって何だろう？」	全員				
2	分数・分数の計算の仕方がわかる		50-55	1	15	CT①
3	約分がある計算ができる		55-56	2.3	16	CT②
4	帯分数のある計算ができる 商の大きさについてのポイントをつかむ		56-57	4.5	17	CT③
5	数直線をつかって分数のわり算の説明ができる		58		18	CT④
6	目標せ！分数のわり算マスター！		59-61	6.7		CT⑤
7	目標せ！分数問題マスター！		66-69	1.2		CT⑥
8	確認テスト					

自分の進度のところに磁石を置き、進度が分かるようにする。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る先進校視察

大熊町立学び舎ゆめの森



校舎内の自分の好きな場所を選んで学習を行う。
この児童は国語のテストを行っていた。

レベルアップタイムを、毎日25分行う。

国語、社会、算数、理科でどの教科でもよいので、自分で選んで自分が学びたいことを行う。

タブレットの時間割り入力が校務とつながり、児童が入力することで、教員も時数のカウントができる。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る先進校視察

研修を通して学んだこと・今後へ向けて

- ・ 多様な学習形態とその実際を知ることができた。
 - ・ 教育課程の編成の工夫。（帯時間の効果的な活用）
 - ・ 児童の入力と時数カウントが連携する等、校務システムの効果的な運用の仕方。
 - ・ 子供主体の学びを創り上げていきたいという教員の思いを出発点とした話し合い、実践の積み重ねがその学校や子供にとって価値あるものが創られていく。
-
- ・ 多様な学習形態の長短を理解した上で、大槌の子供主体の学びを実現していくための方法を考えていく。
 - ・ 令和8年度に予定されている大槌学園の公開へ向けて、学園の職員の必要感や児童生徒の実態に即しながら、今回の視察で得たことを取り入れていきたい。
現場の職員が新たな取り組みに価値を見出し、チャレンジしていく姿勢をもつことができるように、対話を大切にし学園と委員会と協力して取り組んでいく。

大槌町 けやき共育

④ 児童・生徒の状況

大槌町教育委員会

児童・生徒の状況



- ▶ 第1回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果
- ▶ 不登校児童・生徒の推移と支援状況

※不登校児童・生徒・・・年間30日以上長期欠席とする

①第1回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果



- ▶調査目的：大槌町が推進している大槌型教育（大槌型学習デザイン・一貫教育・ふるさと科等）の推進状況について、児童生徒への質問紙調査結果をもとに評価・検証し、成果や課題を明確にすることで、大槌の子どもたちの「豊かな育ち」と「確かな学び」の実現に寄与できるようにする。
- ▶調査期間：令和6年7月（第1回）
- ▶調査対象：大槌学園及び吉里吉里学園4学年以上の全児童生徒

（人）	4 学年	5 学年	6 学年	7 学年	8 学年	9 学年	合計
大 槌 学 園	5 2	6 7	7 5	5 8	6 2	5 7	3 7 1
吉里吉里学園	1 7	1 3	9	6	1 2	9	6 6
町 全 体	6 9	8 0	8 4	6 4	7 4	6 6	4 3 7

①第1回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果



▶検証の視点

- ・新規の不登校児童・生徒を未然に防ぐ手立て(ウェルビーイング)の評価・検証
- ・経年のデータを基に強い肯定的回答の割合で評価・検証

▶検証のための項目

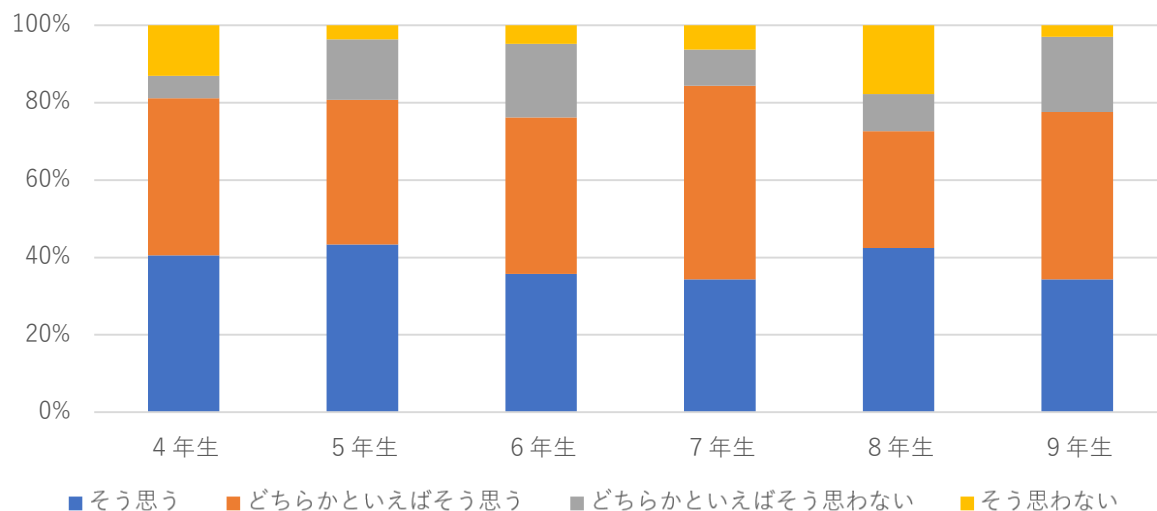
- 1 自分にはよいところがありますか。(自己受容)
- 2 学校に行くのは楽しいと思いますか。(主観的幸福感)
- 3 いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。(尊重・道徳観)
- 4 自分が悩んでいることがあったとき、誰に相談することが多いですか。(多様なつながり)
- 5 まちがうことを気にせずに、授業に取り組んでいますか。(挑戦と周囲のウェルビーイング)

①第1回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果



【項目1】自分にはよいところがありますか。（自己受容）

< R 6 第 1 回 >



< 積極肯定の推移 >

R 5 第 1 回	R 5 第 2 回	R 6 第 1 回
34.7%	30.8%	38.9%

【参考】令和6年度全国学調の同質問の積極肯定結果

	R 6 岩手県	R 6 全国
児童（小6）	38.1%	43.4%
生徒（中3）	37.8%	40.4%

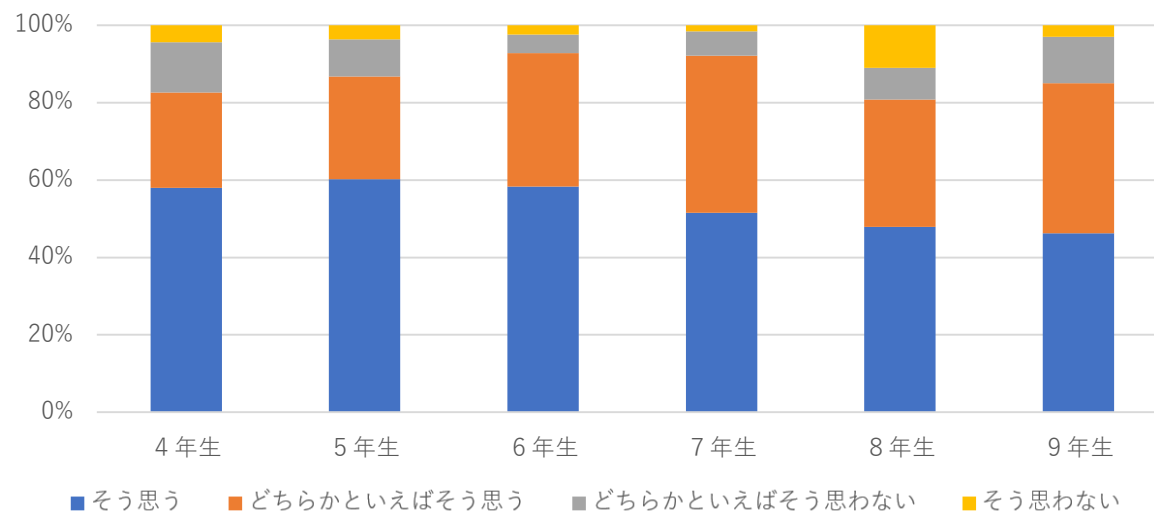
○全体の3割超の児童生徒が積極的に肯定回答し、R6第1回には4割近い数値となっている。これまでの教職員や保護者等からの児童生徒一人一人を認め、励ます支援やはたらきかけの成果が表れていると考えられる。多くの児童生徒による集団生活の場である学校においても、今後さらに、自己のよさを実感できる機会、活躍できる機会の意図的な設定や、個々の児童生徒のよさを認め、伝えることのできる対話場面の設定等ができれば最良であると考えられる。

①第1回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果



【項目2】学校に行くのは楽しいと思いますか。（主観的幸福感）

< R 6 第 1 回 >



< 積極肯定の推移 >

R 5 第 1 回	R 5 第 2 回	R 6 第 1 回
51.6%	46.9%	54.1%

【参考】令和6年度全国学調の同質問の積極肯定結果

	R 6 岩手県	R 6 全国
児童（小6）	41.9%	47.2%
生徒（中3）	44.5%	43.5%

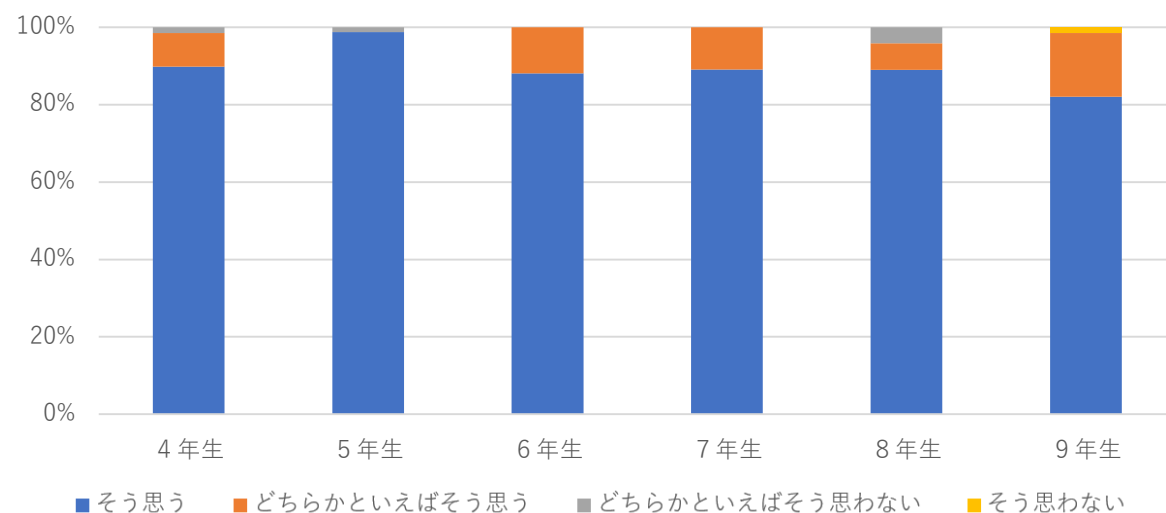
◎ R 5 第 2 回で落ち込みが見られたものの、R 6 第 1 回では非常に高い数値となっている。これまでの教職員の諸活動での工夫、尽力により、多くの児童生徒が学校への登校に対して前向きな印象を有している点が示されている。△否定的回答をした児童生徒に対して、学校への登校に対する前向きな印象形成を促すことだけに偏らず、個別の相談機会の設定等を通して、本人の意向に沿った学習等の場や機会の提供に向けた支援を行うことも重要であると考えられる。

①第1回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果



【項目3】 いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。（尊重・道徳観）

< R 6 第1回 >



< 積極肯定の推移 >

R 5 第 1 回	R 5 第 2 回	R 6 第 1 回
84.3%	84.9%	89.8%

【参考】 令和 6 年度全国学調の同質問の積極肯定結果

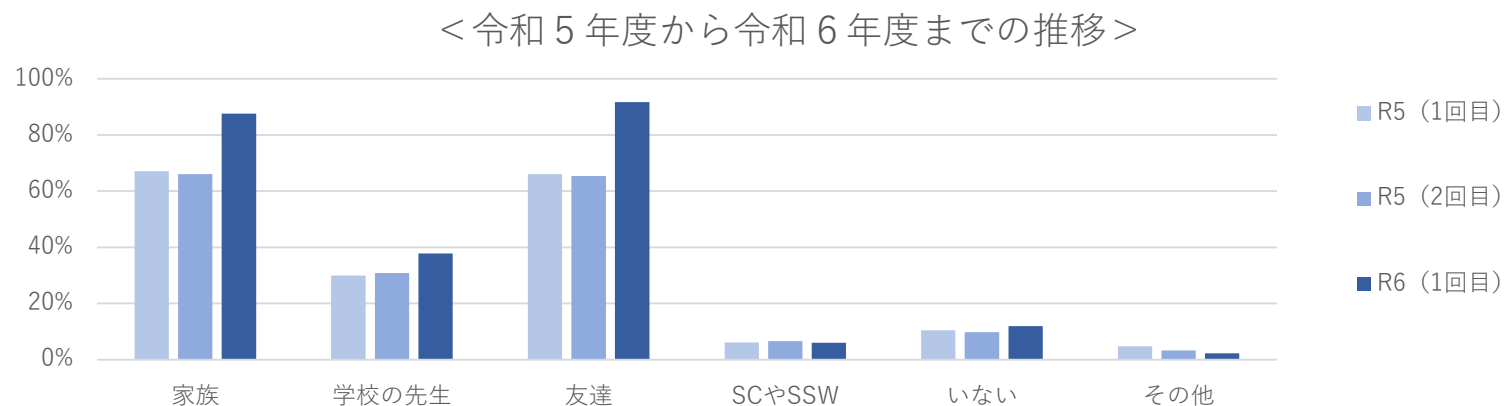
	R 6 岩手県	R 6 全国
児童（小6）	81.2%	80.7%
生徒（中3）	79.5%	77.5%

◎全体の8割超の児童生徒は積極的に肯定回答し、これまでの教職員の尽力により、多くの児童生徒が他者の権利や尊厳を守ろうという認識を有している点が示されている。R 6 第1回では9割近い数値となっている。また、今年度9月末までの町内両学園でのいじめ認知件数は4件といじめ事案の発生は少数に留まっており、上記認識に基づいた児童生徒の望ましい行動が実践されている点が推察される。

①第1回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果



【項目4】自分が悩んでいることがあったとき、誰に相談することが多いですか。（多様なつながり）
※複数回答可



○「家族」及び「友達」の回答割合が高く、多くの児童生徒にとって有効な相談先となっている点が見られる。「先生」の回答割合も高く、日常の教職員と児童生徒との友好的な人間関係や、教職員の存在が学校における児童生徒の心理的安全性の基盤となっていると推察される。

◎R6第1回では項目によらず回答の割合自体が増加しており、「ひとりで悩まない」「困ったことがあったら誰かに相談する」といった意識の高まりと相談先選択肢が増えていることが推察される。これまでの教職員や保護者、SSWやSC等からのほたらきかけの成果が表れていると考えられる。

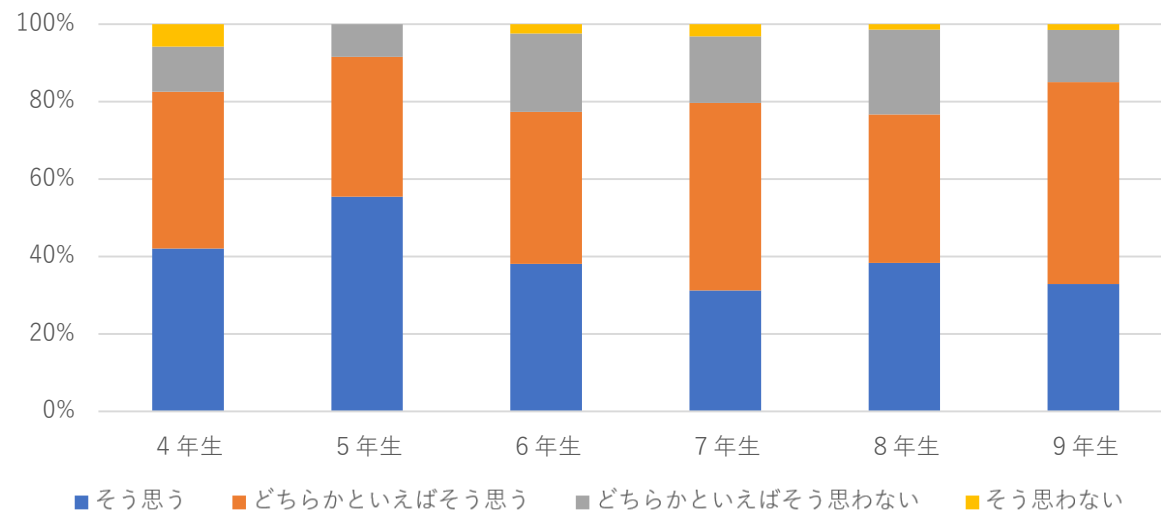
△「いない」と回答した児童生徒も一定数存在したことから、引き続き、児童生徒の身近な支援者（家族、教師、SC、SSW等）が相談先になりうるとともに、相談電話（例：なやむな電話0193-42-7867）やオンライン等による相談先についても情報提供、紹介を積極的に行っていくことも重要であると考えられる。

①第1回大槌町学習・生活アンケート（児童生徒）結果



【項目5】 まちがうことを気にせずに、授業に取り組んでいますか。（挑戦と周囲のウェルビーイング）

< R 6 第1回 >



< 積極肯定の推移 >

R 5 第1回	R 5 第2回	R 6 第1回
65.4%	64.6%	40.2%

※R 5 は 5 教科平均

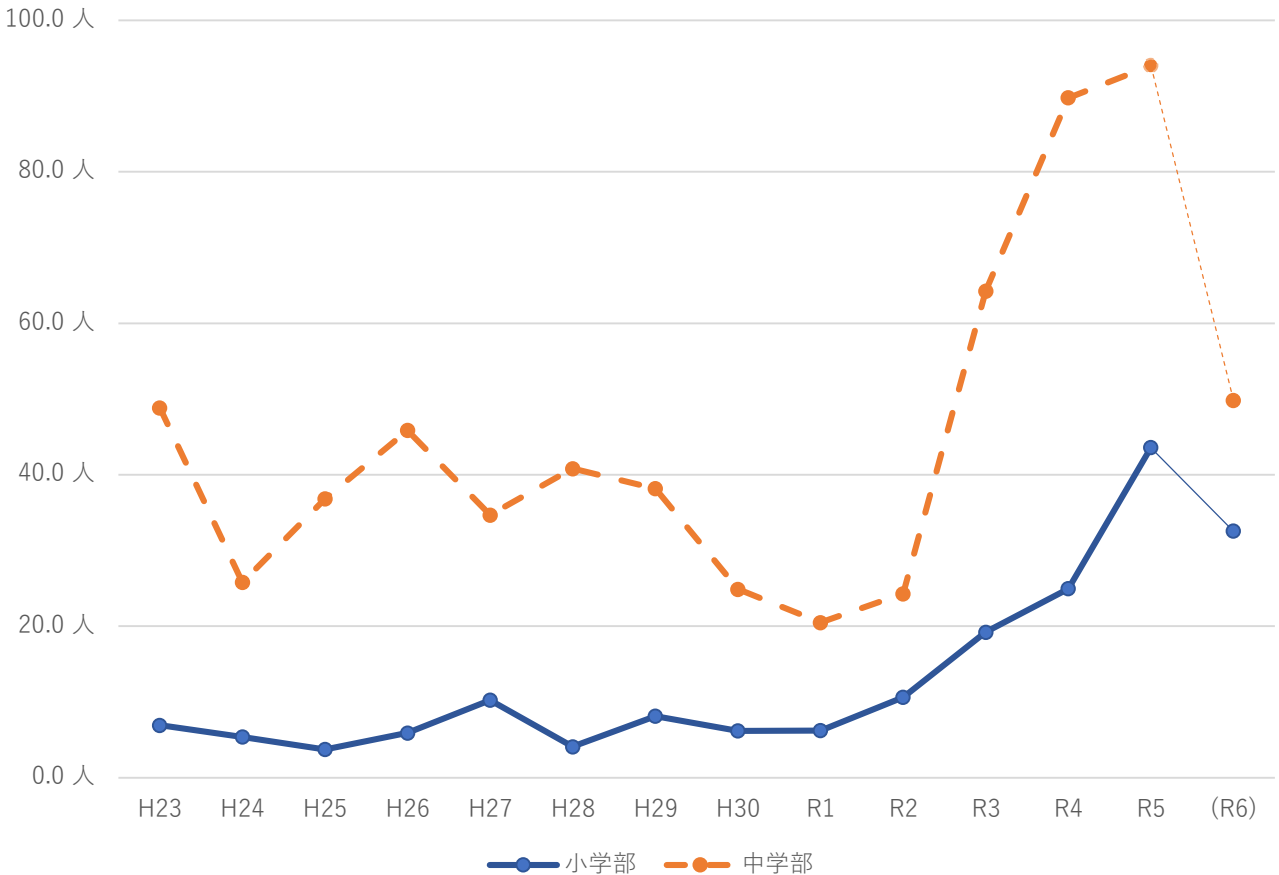
R 5 では 5 教科それぞれの質問であったが、R 6 年度は授業全般における児童生徒の内面的な振り返りが必要と考え、教科によらない質問として実施した。数値が大幅に減少したのは教科ごとに異なっていた間違いのシチュエーションが抽象的になることで、純粹に間違えることへの本人の怖さや不安が表出したものと考えられる。間違えることで学びが深まるといった体験をさせることや、間違っても大丈夫という安心感を持たせる声掛けや工夫が大切だと考えられる。



②不登校児童・生徒の推移と支援状況

・大槌町不登校児童・生徒出現率の推移(30日以上の欠席)

	小学部			中学部		
	不登校児童生徒数	児童数 ※3月時点	出現率 ※1000人あたり	不登校児童生徒数	生徒数 ※3月時点	出現率 ※1000人あたり
H23	4	576	6.9 人	19	389	48.8 人
H24	3	556	5.4 人	9	349	25.8 人
H25	2	533	3.8 人	13	353	36.8 人
H26	3	507	5.9 人	15	327	45.9 人
H27	5	488	10.2 人	11	317	34.7 人
H28	2	487	4.1 人	12	294	40.8 人
H29	4	491	8.1 人	10	262	38.2 人
H30	3	484	6.2 人	6	241	24.9 人
R1	3	481	6.2 人	5	244	20.5 人
R2	5	470	10.6 人	6	247	24.3 人
R3	9	468	19.2 人	16	249	64.3 人
R4	12	481	24.9 人	21	234	89.7 人
R5	20	459	43.6 人	22	234	94.0 人
(R6)	15	461	32.5 人	11	221	49.8 人
	岩手 (R5)		15.8 人	岩手 (R5)		55.1 人
	全国 (R5)		21.4 人	全国 (R4)		67.1 人





②不登校児童・生徒の推移と支援状況

・大槌町不登校児童・生徒数（人）の推移 ※学年別

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計	
H23	1	1	1	0	0	1	5	1	13	23	東日本大震災
H24	0	0	1	0	1	1	3	3	3	12	
H25	0	1	0	1	0	0	3	6	4	15	大槌小学校開校
H26	0	0	1	1	1	0	3	3	9	18	
H27	0	0	0	1	0	4	3	4	4	16	大槌学園開校
H28	0	0	0	1	1	1	4	4	4	15	
H29	0	1	1	1	0	1	2	5	3	14	
H30	0	0	1	1	1	0	1	3	2	9	全国サミット
R1	0	0	0	1	2	0	0	2	3	8	
R2	0	1	0	0	1	3	3	0	3	11	新型コロナウイルス感染症蔓延
R3	1	0	1	1	3	3	9	7	0	25	↓
R4	0	0	1	5	2	4	3	12	6	33	↓
R5	1	4	2	2	7	4	3	6	13	42	「けやき共育」開始
(R6)	0	1	3	2	4	5	4	3	4	26	※R6は9月現在

通信制高校に進学し、「16歳からのけやき共室(OLAI)」を利用し、課題等に取り組んでいる生徒もいる。

1学期の「けやき共育」					
事業	対象	形態	内容	24年1学期実施	1学期実績
1 けやきルーム (教育実証センター)	登録した小・中学生	本人・学校希望登録制	学習・体験・カウンセリングほか	授業日数	のべ 111人 実数 8人 (小3人、中5人)
2 けやき体験学習・自己表現ワーク	長欠の小・中学生	アウトリーチ(通知による案内、希望制)	ふるさと科・キャリア教育・自己表現ワークほか	2回	のべ 17人
3 けやき相談会	長欠の小・中学生	アウトリーチ(通知による案内、希望制)	児童精神科医による医療相談ほか	3回	のべ 8人
4 けやき保護者会	長欠の児童生徒の保護者	アウトリーチ(通知による案内、希望制)	同じ境遇の保護者の集い・当事者のニーズ把握ほか	1回	のべ 5人
5 けやき案内訪問	長欠の6、7、8年生の保護者	アウトリーチ(通知による案内、希望制)	年度末、長欠児童生徒・保護者に向けてけやき共育の案内・相談ほか	実施予定	3学期末予定
6 全員面談	吉里吉里学園全員、大槌学園学年限定	校内面談	SCSSWによる指定学年の全員面談を行い、不登校や困りごとの早期発見、早期対応ほか	実施中	各学年進行中
7 転校生家庭訪問・面談	転校生	アウトリーチ・校内面談	教育相談員、SSWによる家庭訪問、SCによる本人面談ほか	1回	1家族
8 16歳からのけやき共室	登録した高校生	本人希望登録制	通信制高校生の学習・体験・カウンセリングほか	平日	のべ 50人 実数 7人
9 次のステージに向かう生徒・保護者へ	大槌学園小・中学生	本人希望登録制	大槌在任の高校生の中、進学、転校など進路変更を行う生徒	随時	
10 けやき子ども食堂	大槌学園小・中学生	本人の希望	隔週の朝食子ども食堂	6回	のべ 59人

p25資料再掲



②不登校児童・生徒の推移と支援状況

・令和5年度から令和6年度9月までの不登校児童・生徒の推移

令和5年度 ※4月は7日以上 5月から30日以上

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学校	4	0	2	3	4	6	12	14	14	15	20	20
中学校	4	0	3	7	10	17	17	17	17	19	22	22
合 計	8	0	5	10	14	23	29	31	31	34	42	42

42名中**29名**が
1～8年生
(R6年度の在学学生)

令和6年度 ※4月は7日以上 5月から30日以上

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学校	5	1	3	7	7	15						
中学校	7	3	5	8	10	11						
合 計	12	4	8	15	17	26						



②不登校児童・生徒の推移と支援状況

- 令和5年度の不登校児童・生徒29名の状況と新規で心配される4名

			R5欠席(日) ※年間	R6欠席(日) ※9月時点	状 況
回復 傾向	5名	A	39	6	SSWと福祉課が定期的な本人及び家庭への支援。本人にも自力登校の力がつき、家庭も落ち着いてきている。
		B	33	0	SSWが保護者に関わりながら支援。不登校であった姉の卒業により登校意欲が向上したと推察される。
		C	43	6	SSWが保護者に関わりながら支援。不登校であった姉の卒業により登校意欲が向上したと推察される。
		D	105	8	担任、SSW、学園長による継続的な登校支援及び個別の学習支援を行い回復することができた。
		E	87	13	教育相談員による学習支援及び福祉課と児童相談所による家庭への関わりが進学意欲を高め回復することができた。
維持	24名	・ 9月時点で30日を超えている			

②不登校児童・生徒の推移と支援状況



・令和5年度の不登校児童・生徒29名の状況と新規で心配される4名

			R5欠席(日) ※年間	R6欠席(日) ※9月時点	状況
新規	4名	F	22	32	要因：生活リズムの不調、学校生活に対してやる気が出ない 寝坊による欠席が増加。欠席連絡があった日は、学校から連絡し送迎のお願いをしている。家での学習に負担感があるため、放課後に学校で宿題に取り組み、提出してから下校するようにしている。
		G	16	40	要因：不安 7月から欠席が増加。学校というワードを出されると不安になる。放課後登校や保健室登校、別室登校などを進めたが全部拒否している。SC、SSWが関わり、佐藤医師（東京大学医学部）との面談を実施した。
		H	15	32	要因：親子の関わり方問題、学校生活に対してやる気が出ない 9月から欠席が増加。「学級に入りにくい」と訴えがあり担任面談をしたが、困りは特にないとのこと。母にも困り感について話ができいていないようで、欠席の理由については明確になっていない。教育支援センターへの申込を検討中。
		I	22	48	要因：いじめを除く友人関係、不安 昨年度より欠席が増加。今年度1学期は別室と教育支援センターを利用していたが、それらの利用が減り、欠席が増えている状況。週に1回ほど、担任と電話で繋がることはできている。



②不登校児童・生徒の推移と支援状況

- ・不登校児童・生徒（R6 9月時点26名）への支援状況（延べ人数）

支援者	人数	支援状況
SSW	17	・不登校児童・生徒との面談、及び保護者面談 ・ケース会議への参加 ・けやきプログラムの実施 ・福祉課及び児童相談所との連携・調整
SC	12	
教育相談員	8	・主に教育支援センター（OLAI）での相談支援、及び個別の学習支援
養護教諭	2	・主に保健室での相談支援 ・昼食を一緒に食べる等の時間の共有
学団・担任	26	・学校全体で支援が必要な児童・生徒を共有、組織的な対応 ・外部との連携が必要な場合の積極的に情報発信

大槌町 けやき共育

⑤ 3月までの推進計画

大槌町教育委員会

3月までの推進計画

月	実施内容	備考
1 1	○第2回大槌町小中一貫教育・コミュニティ・スクール 推進状況アンケート(教員対象) ○第2回大槌町学習・生活アンケート(児童・生徒対象)	評価・検証 評価・検証
1 2	○大槌町教育大綱策定懇談会	
1	○「大槌の教育」推進協議会 ○特別ニーズ教育研修(東京学芸大学視察)	
2	○第3回総合教育会議 ○幼保小接続研修会	まとめ
3	○今年度の事業のまとめと来年度の計画 ○「大槌町教育大綱」公示	
随時	○心理検査の実施及びアセスメント ○各学園ケース会議への参加	
定期	○支援者定例会	



「けやき共育」の進捗状況について

大槌町教育委員会